

「この本、よかった！」(133)

『十年屋』

作:廣嶋 玲子

絵:佐竹 美保

(静山社)

みなさんにも

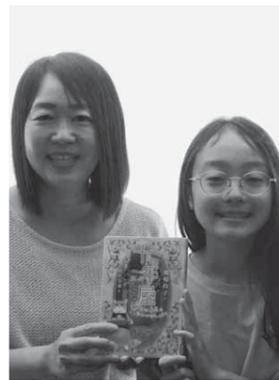
おすすめしたい「くまどく本」、  
今月は、第二小学校からです。

田邊 藍華(6年)

この本は、こわれてしまっても捨てられないもの、大事に保管しておきたいものを十年あずかる店十年屋で、どんな人がどんな物をあずけるのか。その後どうなるのかが気になる話です。

田邊 朝子(母)

十年屋のお客さんのドラマに引き込まれて優しい気持ちになったり、怖い話も…。親子でどのお話が好きだったか、どんな風感じたかを話してきてステキなくまどくタイムになりました。



(教育総務課  
社会教育グループ)

気持ちのよい挨拶がいっぱい！

熊野第一小学校

第一小学校は今年度、「夢に向かって 自ら学び 共に伸びる」を目標に、自分で学びを進める力の育成に取り組んでいます。

この力を育てる土壌となるよう、何事も自分から進んで動く意識をもち、互いを受け入れ合おうとする雰囲気を作るため、1年を通して生活委員会を中心に「場に応じた明るく気持ちのよい挨拶・返事」に取り組めます。廊下や校庭の一部を三角コーンとコーンバーを使って区切り、そこを通る人はがんばって大きな声で挨拶をする、というのが1学期1つ目に行った「挨拶ゾーン」の取り組みです。2つ目の「挨拶100人プロジェクト」は、「校長先生が気持ちのよい挨拶をした100人と記念写真を撮る！」というもので、たった3日間で目標を達成しました。

どちらの取り組みも少し恥ずかしそうにしながらも、明るい声でニコニコと挨拶をしている姿が印象的でした。この明るい挨拶が全校に広がるよう、2学期からもいろいろな取り組みをしていきます。



▲「挨拶100人プロジェクト」達成までの様子  
(教育総務課)

やりがいと大変さを学んだ  
職場体験学習

熊野中学校

7月8日(月)～12日(金)の5日間、2年生が町内の25の事業所で職場体験学習を行いました。

事前学習では、履歴書の作成、職場へ電話での挨拶、事業所までの道順の確認、事前訪問などを行いました。

体験当日は、それぞれの事業所の人に指導してもらいながら、日を重ねるごとに、仕事内容もレベルアップしていきました。

事業所の人からは「てきぱきといい動きをしています。」「よく頑張っていて、ずっといてほしい。」という声をいただきました。

参加した生徒は「日頃、人と接するときの態度や言葉遣い、自分で考えて次の行動に移すことが大切だと感じた。」「困ったり迷ったりした時はすぐに相談して、協力して取り組みたい。」といった感想を述べていました。

学んだことを活かし、将来について考えるきっかけとします。事業所のみなさん、5日間ご指導いただき、ありがとうございました。



▲職場体験の様子  
(教育総務課)

野焼きに関する相談が多く寄せられています

▷家庭ごみ

野焼きは法律で禁止されています。

▷刈草など

やむを得ないもののみ、法律上の例外として野焼きが認められています。ただし、野焼きを行う際は以下の2点を必ず守ってください。

- ①燃やす量や風向き、時間帯などへの配慮をする。
- ②火災の誤報とならないよう、事前に広島市安芸消防署熊野出張所(☎854-1103)へ連絡する。

刈草などは、可燃ごみとしてごみステーションに出すことができます(1回2袋まで)。ごみの正しい出し方を遵守し、量が多い場合は、環境事務所または安芸クリーンセンターへの直接持ち込みをお願いします。(生活環境課)

広島・和歌山両熊野高等学校  
姉妹校交流

熊野高等学校

この地に(340)

7月6日(土)・7日(日)、生徒会・2学年アートディレクションコース・書道部から生徒代表13人が和歌山県立熊野高等学校を訪れ、世界遺産熊野古道20周年記念行事などを通して交流を深めました。

初日に和歌山県立熊野高等学校にて、探究活動などの発表を相互に行った後、地元固有の記念行事に参加したり、熊野古道を見学したりしました。

翌日は熊野本宮大社旧社地大斎原の奉納奉告祭へ参列しました。「未来への墨痕」イベントでは、まず宮司が中央に大きく「光」と揮毫し、続いて両熊野高校生が箏笛の曲に合わせ厳かに揮毫しました。本校生徒は「舞 翼を広げて」を揮毫し、無事大役を果たすことができました。

最後は、生徒代表がお別れの挨拶をし、「蘇りと来世の地」を後にしました。



▲晴天の下、揮毫する様子  
熊野高等学校 ☎854-4155

人権とわたし

『ジェンダー』ってなに？

ジェンダーとは、「社会的・文化的に形成された性差」です。

人間には生物学的な性別がある一方、社会通念や慣習の中で作り上げられた「男性像」「女性像」があり、このような作り上げられた性差を「ジェンダー」と言います。

ジェンダーは社会(国・地域)や時代によって異なり、一様ではありませんが、私たちの判断や行動に大きな影響を与えていると言えます。例えば、出産は女性が担います。これは生物学的な性別に基づくものです。では、育児はどうでしょうか。女性にしかできないことは限られています。



また、つつい「女性らしく」とか「男のくせに」と言ってしまうことがあります。これらは「ジェンダーバイアス」と呼ばれる、男女の役割における固定観念や思い込みによるものです。

出典：広島県環境県民局わたらしい生き方応援課発行  
モヤモヤ解消読本

(生活環境課)